

在日アジア系留学生の異文化ストレスに関連する心理的要因の検討

Psychological Factors Related to Acculturative Stress among Asian International Students in Japan

朴 賢娥 (Hyuna Park) 指導：野村 忍

【問題と目的】

近年、国際化の進展に伴い、日本の高等教育機関に在学する外国人留学生の数は年々増加している。そのうち、アジア地域からの留学生は全体の9割以上を占めている。このような在日アジア系留学生数の増加に伴い、留学生の学習環境や生活適応状況、メンタルヘルス不全に関する様々な問題が表面化してきている。

一方、異文化適応アプローチや援助に対するニーズは文化集団によって異なるにも関わらず (Sue, 1994; Leong et al., 1995), サービスの内容や提供の仕方をそれぞれの文化集団のニーズに見合ったものにする試みは十分行われていない。したがって、本研究では在日アジア系留学生の生活上の困難やストレスの実態とそれらに関与していると思われる心理的要因を明らかにすることで、異文化適応における基礎的な情報を提供することを目的とする。

【研究1】

目的：在日アジア系留学生の異文化ストレスを測定する尺度を作成し、信頼性および妥当性を検討する。

方法：①対象者：在日アジア系留学生 (494名；男性245名、女性243名、不明6名、平均年齢=22.96歳、 $SD=3.51$ 歳) ②調査材料：ASA、ストレス評定項目、GHQ。質問紙は日本語版、英語版、中国語版、韓国語版を用いた。③手続き：自由記述によって抽出された156項目に対し、KJ法を実施した。その結果、得られた41項目について併存的妥当性を測るための質問紙とともに質問紙調査を実施した。

結果と考察：因子分析 (主因子法・プロマックス回転) の結果、4因子20項目 (経済問題、対人関係、言語的問題、異文化によるトラブル) が抽出された。Cronbachの α 係数と再検査信頼性係数を算出したところ、全体的に高い値 ($\alpha=.88$, $r=.75$) が得られた。また、併存的妥当性を測るため、ストレス評定項目との相関係数を算出した結果、 $r=.68$ という高い値が得られた。GHQ得点はASA高群の方が低群より高く、アジア群は非アジア群より得点が高かった。これらの結果から作成したASAについて十分な信頼性・妥当性が得られたと判断した。各因子に含まれている項目は、在日アジア系留学生が日本社会で生活し、勉学していく際の問題や困難感を含んでおり、異文化環境に置かれた留学生

にとってはより現実的かつ切実な問題であることが示唆された。なお、属性別分析の結果、異文化ストレスは女性、滞在年数2年以上3年未満群、専門学校生、私費留学生、日本語能力下位群の方が高い傾向が示された。

【研究2】

目的：異文化ストレスと対処方略が精神的健康に与える影響を検討する。また、心理学的ストレスモデルに基づき、それぞれの要因がどのような経路をたどり、精神的健康に影響するのか、その一連の過程を検討する。

方法：①対象者：在日アジア系留学生計494名。②調査材料：ASA, CISS, GHQ。③手続き：一斉法で無記名自己記入式による質問紙調査を実施した。

結果と考察：重回帰分析の結果、ASAはGHQに対して有意な β 係数を示した。CISSにおいては、問題優先対処と回避優先対処が有意な負の β 係数を示したのに対し、情緒優先対処は有意な正の値を示した。共分散構造分析を行った結果、異文化ストレス→対処方略→精神的健康という因果関係が明らかになった。モデルの適合度は $GFI=.987$, $AGFI=.953$, $CFI=.985$, $RMSEA=.055$ と十分高い値が示された。また、多母集団同時解析を採用し、男女間の相違を分析した結果、対人関係から回避優先対処への影響を示すパスにおいて、男性では正のパスが、女性では負のパスが得られた。回避優先対処からGHQへの影響についても男女間の差異がみられ、女性では有意な負のパスが示されているのに対し、男性ではこのパスが有意ではないなどの違いが認められた。

【総合考察】

本研究は、在日アジア系留学生用異文化ストレス尺度を作成し、異文化ストレスと対処方略の精神的健康への影響を検討した。留学生の精神的健康は異文化ストレス、対処方略から予測でき、同じ対処方略であってもストレスによって精神的健康との関係は変化することが示された。また、性別はそれぞれの異文化ストレスに対する対処方略の選択に影響を与えることが示唆され、援助が必要とされる留学生への心理的介入を検討する際の基礎的な知見が得られた。